

報道発表資料

令和3年9月2日
独立行政法人国民生活センター

PIO-NET にみる 2020 年度の危害・危険情報の概要

この概要は、PIO-NET^(注1)により収集した2020年度の「危害・危険情報」^(注2)をまとめたものです。当該情報の詳細については、「消費生活年報2021」にまとめ、2021年10月に国民生活センターホームページ上に掲載する予定です。

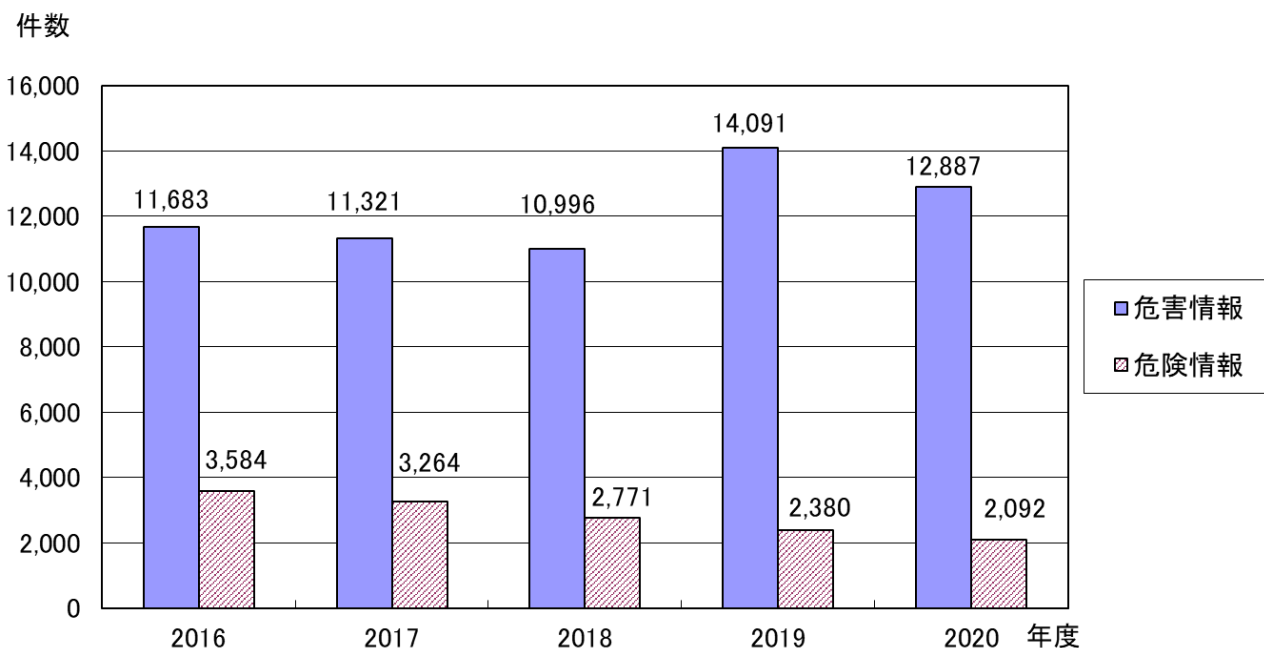
2020 年度の傾向と特徴

- ・全国の消費生活センター等から収集した「危害・危険情報」は14,979件で、対前年度比でみると9.1%減となっています。
- ・「危害情報」は12,887件で、上位3商品・役務等は「健康食品」、「化粧品」、「医療サービス」でした。「危険情報」は2,092件で、上位3商品・役務等は「四輪自動車」、「調理食品」、「敷物類」でした。
- ・「危害情報」は、「健康食品」が404件、「化粧品」が228件、それぞれ減少し、前年度より1,204件減少しました。
- ・「危険情報」は「四輪自動車」が117件減少し、前年度より288件減少しました。
- ・「危険情報」のうち、3位の「敷物類」が、前年度（153位、2件）より75件増加しました。これは珪藻土^{けいそうど}マットの一部の銘柄に、石綿（アスベスト）が含まれていたことが報道されたことを受け、健康への影響についての相談などが増加したためです。
- ・新型コロナウイルス関連の危害情報は450件、危険情報は34件で、いずれも1位はマスクなどを含む「他の保健衛生用品」（危害情報129件、危険情報12件）となっています。

(注1) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注2) 「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」）と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除いている。

図. 「危害・危険情報」の収集件数の推移



1. 「危害情報」の概要

2020年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は12,887件でした(2019年度:14,091件)。新型コロナウイルス関連の危害情報は450件で、1位はマスクなどを含む「他の保健衛生用品」(129件)でした。マスクや除菌用品による皮膚障害などの危害情報が寄せられました。

(1) 商品別分類別件数

商品別分類別にみると、1位は、「食料品」(「健康食品」、「調理食品」、「飲料」、「菓子類」など)4,358件(33.8%)で、このうち「健康食品」が3,526件と、80.9%を占めています。(表1、表2)

2位は「保健衛生品」(「化粧品」、「医薬品類」、マスクなどを含む「他の保健衛生用品」など)3,462件(26.9%)で、このうち「化粧品」が2,661件と、76.9%を占めています。

3位は「保健・福祉サービス」(「医療サービス」、「エステティックサービス」、「歯科治療」、「美容院」など)2,215件(17.2%)でした。

4位は「住居品」(「洗濯用洗剤」、「家具類」、「ふとん類」など)847件(6.6%)、5位は「教養娯楽品」(「タバコ用品」、「健康器具」など)409件(3.2%)でした。

具体的に商品・役務等別にみると、1位は「健康食品」3,526件(27.4%)で、前年度(1位、3,930件)より404件減少しました。各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」が前年度より434件減少したものの2,175件で、「高麗人参茶」の771件と合わせると8割以上を占めます。(表2)

2位は「化粧品」2,661件(20.6%)で、前年度(2位、2,889件)より228件減少しました。「乳液」が前年度より309件減少し410件、「化粧クリーム」が403件でした。

3位は、美容医療を含む「医療サービス」754件(5.9%)で、前年度(3位、832件)より78件減少しました。

4位は「エステティックサービス」345件(2.7%)で、前年度(4位、395件)より50件減少しました。「美顔エステ」が前年度より46件減少しました。

5位は「賃貸アパート・マンション」296件(2.3%)で、前年度(8位、255件)より41件増加しました。

表1. 「危害情報」の商品別分類の上位5位の推移

順位	2020年度 12,887 件			2019年度 14,091 件			2018年度 10,996 件		
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	食料品	4,358	33.8	食料品	4,867	34.5	食料品	2,749	25.0
2	保健衛生品	3,462	26.9	保健衛生品	3,477	24.7	保健・福祉サービス	2,569	23.4
3	保健・福祉サービス	2,215	17.2	保健・福祉サービス	2,636	18.7	保健衛生品	2,438	22.2
4	住居品	847	6.6	住居品	773	5.5	住居品	752	6.8
5	教養娯楽品	409	3.2	他のサービス	442	3.1	他のサービス	469	4.3

※ 割合は小数点第2位以下を四捨五入した値です。

表2. 「危害情報」の上位5商品・役務等の推移

順位	2020年度 12,887 件			2019年度 14,091 件			2018年度 10,996 件		
	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)
1	健康食品	3,526	27.4	健康食品	3,930	27.9	化粧品	1,832	16.7
2	化粧品	2,661	20.6	化粧品	2,889	20.5	健康食品	1,800	16.4
3	医療サービス	754	5.9	医療サービス	832	5.9	医療サービス	846	7.7
4	エステティックサービス	345	2.7	エステティックサービス	395	2.8	エステティックサービス	409	3.7
5	賃貸アパート・マンション	296	2.3	外食	363	2.6	外食	375	3.4

※ 割合は小数点第2位以下を四捨五入した値です。

(2) 危害内容

危害内容別にみると、1位は、「皮膚障害」4,515件(35.0%)で、前年度(1位、4,708件)より193件減少しました。件数が多いものは「化粧品」、「健康食品」などになっています。このうち「化粧品」が前年度より203件減少したものの2,487件と過半数を占めており、次いで「健康食品」が865件でした。(表3)

2位は、「消化器障害」2,841件(22.0%)で、前年度(2位、3,299件)より458件減少しました。件数が多いものは「健康食品」、「飲料」、「調理食品」、「医薬品類」などになっています。このうち「健康食品」が前年度より428件減少しましたが、2,207件と約8割を占めています。

3位は、「その他の傷病及び諸症状^(注3)」、2,626件(20.4%)で、前年度(3位、2,759件)より133件減少しました。件数が多いものは「医療サービス」、「健康食品」、「歯科治療」などになっています。「歯科治療」が82件、「医療サービス」が34件、それぞれ前年度より減少しています。

4位は「擦過傷・挫傷・打撲傷」561件(4.4%)で、前年度(4位、640件)より79件減少しました。件数が多いものは「自転車」、「エステティックサービス」などになっています。

5位は「熱傷」525件(4.1%)で、前年度(5位、570件)より45件減少しました。件数が多いものは「医療サービス」、「エステティックサービス」などになっています。

(注3) 「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、歯の損傷、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表 3. 危害内容別上位 5 位の推移

順位	2020年度 12,887 件			2019年度 14,091 件			2018年度 10,996 件		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	皮膚障害	4,515	35.0	皮膚障害	4,708	33.4	皮膚障害	3,221	29.3
2	消化器障害	2,841	22.0	消化器障害	3,299	23.4	その他の傷病及び諸症状	2,667	24.3
3	その他の傷病及び諸症状	2,626	20.4	その他の傷病及び諸症状	2,759	19.6	消化器障害	1,726	15.7
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	561	4.4	擦過傷・挫傷・打撲傷	640	4.5	擦過傷・挫傷・打撲傷	645	5.9
5	熱傷	525	4.1	熱傷	570	4.0	熱傷	600	5.5

※ 割合は小数点第 2 位以下を四捨五入した値です。

(3) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別件数は、女性が 9,635 件 (74.8%)、男性が 3,064 件 (23.8%) で、いずれも前年度に比べて件数が減少しましたが、性別の割合はほぼ変わりませんでした。(表 4)

年代別件数では、50 歳代が 2,734 件 (21.2%) と最も多く、以下、70 歳以上 2,198 件 (17.1%)、40 歳代 2,134 件 (16.6%)、60 歳代 1,968 件 (15.3%)、30 歳代 1,284 件 (10.0%)、20 歳代 1,067 件 (8.3%)、10 歳代 364 件 (2.8%)、10 歳未満 169 件 (1.3%) と続いています。前年度に比べて、70 歳以上を除く各年代で件数が減少しました。

次に、被害者の年代別に危害の最も多い商品・役務等をみると、10 歳未満は「菓子類」11 件、10 歳代と 70 歳以上は「化粧品」で、10 歳代が 127 件、70 歳以上が 474 件となっています。(表 5)

20 歳代から 60 歳代までは「健康食品」で、20 歳代が 261 件、30 歳代が 323 件、40 歳代が 724 件、50 歳代が 953 件、60 歳代が 595 件となっています。

マスクなどを含む「他の保健衛生用品」は 10 歳代を除く各年代で増加しました。

表 4. 年代別・性別危害件数

年代	男性		女性		不明・無回答 (未入力)		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10 歳未満	74	2.4	66	0.7	29	15.4	169	1.3
10 歳代	166	5.4	193	2.0	5	2.7	364	2.8
20 歳代	248	8.1	813	8.4	6	3.2	1,067	8.3
30 歳代	294	9.6	984	10.2	6	3.2	1,284	10.0
40 歳代	436	14.2	1,692	17.6	6	3.2	2,134	16.6
50 歳代	526	17.2	2,204	22.9	4	2.1	2,734	21.2
60 歳代	448	14.6	1,515	15.7	5	2.7	1,968	15.3
70 歳以上	599	19.5	1,598	16.6	1	0.5	2,198	17.1
無回答(未入力)	273	8.9	570	5.9	126	67.0	969	7.5
合計	3,064	23.8	9,635	74.8	188	1.5	12,887	100.0

※ 割合は小数点第 2 位を四捨五入しており、内訳の数値の合計は 100.0% にはならない場合があります。

表 5. 危害情報における年代別の上位 5 商品・役務等

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満	菓子類 11	玩具・遊具その他 10	外食 家具類 9		化粧品 調理食品 賃貸アパート・マンション 6
10歳代	化粧品 127	健康食品 90	自転車 25	美容院 12	医療サービス 11
20歳代	健康食品 261	化粧品 174	医療サービス 151	エステティックサービス 131	賃貸アパート・マンション 40
30歳代	健康食品 323	化粧品 189	医療サービス 133	エステティックサービス 77	賃貸アパート・マンション 65
40歳代	健康食品 724	化粧品 397	医療サービス 117	エステティックサービス 52	洗濯用洗剤 賃貸アパート・マンション 49
50歳代	健康食品 953	化粧品 620	医療サービス 95	エステティックサービス 50	歯科治療 49
60歳代	健康食品 595	化粧品 550	医療サービス 53	歯科治療 45	他の保健衛生用品 36
70歳以上	化粧品 474	健康食品 438	医薬品類 135	医療サービス 125	他の保健衛生用品 53
無回答(未入力)	健康食品 139	化粧品 124	医療サービス 66	賃貸アパート・マンション 47	調理食品 飲料 22

2. 「危険情報」の概要

2020年度に収集した「危険情報」は2,092件でした（2019年度：2,380件）。

新型コロナウイルス関連の危険情報は34件で、1位はマスクなどを含む「他の保健衛生用品」（危険情報12件）でした。

（1）商品別分類別件数

商品別分類別にみると、1位は「住居品」（「敷物類」、「電子レンジ類」、「家具類」など）649件（31.0%）で、特に「敷物類」は前年度（153位、2件）より75件増加しました。これは珪藻土^{けいそうど}マットの健康への影響についての相談などが増加したためです。（表6）

2位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」など）381件（18.2%）、3位は「教養娯楽品」（「電話関連機器・用品」、「携帯電話」、「テレビ」など）334件（16.0%）、4位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」、「飲料」など）285件（13.6%）、5位は「保健衛生品」（「ヘアケア用具」、「他の保健衛生用品」など）110件（5.3%）でした。

具体的に商品・役務等別にみると、1位は「四輪自動車」229件（10.9%）で、前年度より117件減少しました。2位は「調理食品」97件（4.6%）、3位は「敷物類」77件（3.7%）、4位は「電話関連機器・用品」58件（2.8%）、5位は「自転車」55件（2.6%）でした。（表7）

表6. 「危険情報」の商品別分類の上位5位の推移

順位	2020年度 2,092件			2019年度 2,380件			2018年度 2,771件		
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	住居品	649	31.0	住居品	662	27.8	住居品	809	29.2
2	車両・乗り物	381	18.2	車両・乗り物	516	21.7	車両・乗り物	558	20.1
3	教養娯楽品	334	16.0	教養娯楽品	333	14.0	教養娯楽品	387	14.0
4	食料品	285	13.6	食料品	318	13.4	食料品	365	13.2
5	保健衛生品	110	5.3	保健衛生品	92	3.9	保健衛生品	108	3.9

※ 割合は小数点第2位以下を四捨五入した値です。

表7. 「危険情報」の上位5商品・役務等の推移

順位	2020年度 2,092件			2019年度 2,380件			2018年度 2,771件		
	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)	商品・役務等	件数	割合(%)
1	四輪自動車	229	10.9	四輪自動車	346	14.5	四輪自動車	376	13.6
2	調理食品	97	4.6	調理食品	94	3.9	調理食品	102	3.7
3	敷物類	77	3.7	自転車	59	2.5	電話関連機器・用品	80	2.9
4	電話関連機器・用品	58	2.8	電話関連機器・用品※1	52	2.2	電子レンジ類	68	2.5
5	自転車	55	2.6	電子レンジ類※1	52	2.2	菓子類	65	2.3

※1 同件数のためいずれも4位。

※ 割合は小数点第2位以下を四捨五入した値です。

（2）危険内容

危険内容別でみると、1位は「過熱・こげる」323件（15.4%）で、件数が多いものは「携帯電話」、「電話関連機器・用品」、「パソコン」などで、前年度（1位、334件）より11件減少しました。（表8）

2位は「発煙・火花」298件（14.2%）で、件数が多いものは「テレビ」、「ヘアケア用具」、「四輪自動車」、「電子レンジ」などで、前年度（4位、284件）より14件増加しました。

3位は「異物の混入」278件（13.3%）で、件数が多いものは「調理食品」、「菓子類」、「他の野菜・海草加工品」などで、前年度（3位、304件）より26件減少しました。

4位は「機能故障」220件（10.5%）で、件数が多いものは「四輪自動車」、「修理サービス」、「自動二輪車」などで、前年度（2位、326件）より106件減少しました。

5位は「破損・折損」215件（10.3%）で、件数が多いものは「自転車」、「家具類」、「賃貸アパート・マンション」などで、前年度（5位、242件）より27件減少しました。

表8. 危険内容別上位5位の推移

順位	2020年度 2,092件			2019年度 2,380件			2018年度 2,771件		
	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)
1	過熱・こげる	323	15.4	過熱・こげる	334	14.0	過熱・こげる	400	14.4
2	発煙・火花	298	14.2	機能故障	326	13.7	発煙・火花	380	13.7
3	異物の混入	278	13.3	異物の混入	304	12.8	異物の混入	363	13.1
4	機能故障	220	10.5	発煙・火花	284	11.9	機能故障	347	12.5
5	破損・折損	215	10.3	破損・折損	242	10.2	破損・折損	346	12.5

※ 割合は小数点第2位以下を四捨五入した値です。

○情報提供先

消費者庁

(法人番号 5000012010024)

内閣府 消費者委員会

(法人番号 2000012010019)

(本件問い合わせ先)

商品テスト部：042-758-3165

別添

<参考資料 2020年度の「危害情報」「危険情報」における上位3商品・役務等の概要>

1. 「危害情報」

①健康食品 (3,526件)

「健康食品」は3,526件で、危害情報全体に占める割合は27.4%となっています。「健康食品」の内訳をみると、各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」2,175件(61.7%)、「高麗人参茶」771件(21.9%)、「健康食品全般」285件(8.1%)の順でした。前年度より「他の健康食品」が434件減少したことなどから、前年度(1位、3,930件)より404件減少しました。

性別では、女性が2,936件と8割以上を占めています。

年代別では、50歳代が953件(27.0%)で最も多く、次いで、40歳代724件(20.5%)、60歳代595件(16.9%)の順となっています。

危害内容は、「消化器障害」が2,207件(62.6%)で、次いで「皮膚障害」865件(24.5%)、「その他の傷病及び諸症状」347件(9.8%)の順となっています。

<事例>

- ・初回500円の酵素サプリメントを購入し飲んだところ、血圧が高くなった。医師に相談したところサプリメントに原因がある可能性が高いと言われた。(30歳代・女性)
- ・スマートフォンから妊活サプリメントを購入し飲んだところ、下痢や血便の症状が出た。医師に相談したら妊活に良くない成分が含まれていると言われた。解約を申し出ると、初回のみ解約はできないと言われた。(40歳代・女性)

②化粧品 (2,661件)

「化粧品」は2,661件で、危害情報全体に占める割合は20.6%となっています。「化粧品」の内訳をみると、「乳液」が410件(15.4%)、「化粧クリーム」が403件(15.1%)の順でした。前年度より「乳液」が309件減少したことなどから、前年度(第2位、2,889件)より228件減少しました。

性別では、女性が2,278件と8割以上を占めています。

年代別では、50歳代が620件(23.3%)で最も多く、次いで、60歳代が550件(20.7%)、70歳以上474件(17.8%)の順となっています。

危害内容は、「皮膚障害」が2,487件(93.5%)、次いで「その他の傷病及び諸症状」145件(5.4%)の順となっています。

<事例>

- ・インターネット通販でまつ毛美容液を定期購入し2週間くらい使っていたところ、目のまわりがただれ、目を開けると痛い。皮膚科を受診したところ、まつ毛美容液が原因ではないかと言われた。(30歳代・女性)
- ・新聞広告を見て注文した美白クリームを使用したところ、目に痛みと充血、まぶたがゴロゴロする症状が出た。眼科を受診したらクリームの成分が揮発して角膜を痛めたのではないかと言われた。(60歳代・女性)

③医療サービス（754件）

「医療サービス」は754件で、危害情報全体に占める割合は5.9%となっています。「医療サービス」の内容をみると、美容医療に関する相談が462件（61.3%）となっています。

性別では、女性が560件と7割以上を占めています。

年代別では、20歳代が151件（20.0%）で最も多く、次いで30歳代が133件（17.6%）、70歳以上が125件（16.6%）の順となっています。

危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」が347件（46.0%）と最も多く、次いで「皮膚障害」154件（20.4%）、「熱傷」94件（12.5%）の順となっています。

<事例>

- ・半年以上前に美容外科で二重まぶた埋没手術を受けたが、いまだにドライアイとまぶしさの症状が続く。（20歳代・男性）
- ・オンライン診療でダイエット治療薬を購入し、4日ほど服用したら、胸痛や倦怠感^{けんたいかん}が出てきた。近所の病院に相談したら、対面でしか処方できない利尿作用のある糖尿病薬と分かった。（30歳代・女性）

2. 「危険情報」

①四輪自動車（229件）

「四輪自動車」は229件で、危険情報全体に占める割合は10.9%となっています。「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」161件（70.3%）が最も多く、次いで「軽自動車」59件（25.8%）の順となっています。

危険内容は、「機能故障」146件（63.8%）が最も多く、次いで「発煙・火花」17件（7.4%）、「火災」15件（6.6%）の順でした。

<事例>

- ・2カ月前に購入した新車の衝突被害軽減ブレーキが利かず、物置にぶつかった。試してみたらどんな障害物にも警告音と警告灯は反応するのに自動ブレーキが作動しなかった。不良品とは認めず不審だ。
- ・駐車場で半年ほど前に購入した中古車のエンジンをかけて除雪していたら、ボンネットから発火し車が全焼した。

②調理食品（97件）

「調理食品」は97件で、危険情報全体に占める割合は4.6%となっています。「調理食品」の内訳をみると、「弁当」30件（30.9%）、ギョウザなどを含む「他の調理食品」30件（30.9%）、「冷凍調理食品」19件（19.6%）の順となっています。

危険内容は、「異物の混入」が84件と8割以上を占めました。

<事例>

- ・テイクアウトした牛丼を食べたら歯に固いものが当たった。口から出したら鉛の玉のようなものだった。業者が調査した結果、店の精米機の部品だったと判明した。

- ・スーパーで容器入りの調理済みチキンを購入した。その容器にはレンジの温め推奨時間やワット数の記載はなかったが、電子レンジ対応と下容器のみに書かれていたのでレンジで加熱できると思い加熱したところ、庫内で火花が上がり、下容器の一部が溶けた。チキンの持ち手部分に巻かれていた包装が焦げていた。

③敷物類（77件）

「敷物類」は77件で、危険情報全体に占める割合は、3.7%となっています。「敷物類」は珪藻土^{けいそうど}マットの健康への影響についての相談などが多く、危険内容は、「その他」66件（85.7%）、「破損・折損」10件（13.0%）の順となっています。

<事例>

- ・大型家具店の珪藻土^{けいそうど}バスマットに、法令の基準を超えるアスベストが含まれていたと報道があった。以前割れて粉が飛散したままベランダに放置しているバスマットがあるが健康被害がないか心配だ。
- ・4年前に購入した珪藻土^{けいそうど}バスマットの取扱説明書には「汚れが目立つようになったら紙やすりなどで削るように」と書かれていたので、削って出た粉は掃除機で吸引していた。販売店に問い合わせたら、アスベストの健康被害が出るかどうか分からないと言われ不安だ。